



松川 昌義

日本生産性本部
理事長



1970年から20年間、日本全国を駆け回って企業の役員、管理職、社員、労働組合幹部を対象に生産性教育を実施していた。当時の研修は泊まり込みの合宿形式で、全国のユースホステルや青年の家で、30名前後の参加者に生産性に関する講演を行った。上の2枚の写真は合宿研修時の講演とグループ討議指導の写真。生産性への理解を深めるため、さまざまなテーマ（例えば、生産性と付加価値、生産性と技術革新、生産性と労使関係）で話をした。

1970年代は公害問題が大きなテーマとなっており、企業の社会的責任が問われ、企業と地域社会との良好な関係をど

のように維持していくかが真剣に議論されていた。地域社会と一緒に研修を行うという企画が決まり、研修の候補地を奈良県の明日香村とし、1975年の春、一人アポなしで明日香村の村役場を訪問した。明日香村からの全面的な協力により、公民館の使用と20軒ほどあった民宿の予約を取りつけた。

研修は夏に開催された。全国の企業から約200名の参加者が明日香村に集合し、フィールドワークで「企業と社会との新たな関係を考える」をテーマに、一軒の民宿に約10名が宿泊し、4泊5日の合宿形式で行われた。座学だけでなく、明日香村の農家に協力してもらい、農作業の手伝い等もプログラムに取り入れ、参加者は畑に出て汗を流して作業した。

下の写真は明日香村で、現在の島根日産自動車の櫻井誠己社長と。名物の飛鳥鍋が夕食に出て、夏にもかかわらず、おいしくいた

だ。各民宿では参加者と民宿家族との間に親密な交流が生まれ、最後の夜は別れが惜しまれ、涙を流すという感激シーンがあったことも思い出の一つとなった。

現在、成長戦略の中で生産性が重要なテーマとなっている。生産性への理解を深めるためにも、労使が生産性の教育に取り組むことを願っている。

明日香村での生産性教育



生産性教育を全国で開催



グループ討議後の発表へのコメント



明日香村の畑をバックに。左は櫻井さん